

<詩>

若き友へ

山形大学前学長 仙道 富士郎

張り裂けんばかりの思いもて、  
学舎の門をくぐりし時より僅か二ヶ月、  
君たちの顔に慣れと怠惰の影が忍び寄るのを見るは  
我が老いの倣いか

いま思ってもみよ  
無限の時間と、はてしなき宇宙の唯一つ交わりしその所に  
君たち一人一人も私もあり、  
塵よりも小さしと言えども、それぞれ異なりて、  
己の輝きを示す  
虫も草や木もこれに倣う

無窮のなかの尊きいまこの一点にありて  
なにかを想い煩うのか、その小さきことどもに  
いま君たちに問う  
より高き地位を得、より物豊かな日々を送ることなどが  
君たちの輝ける未来になんの値ありやと

眼を大きく開いて見よ  
多くの輩が、いま飢えと戦いの中に命を落としていく様を  
そして想え、  
草や木の命をもいとおしんで草木塔を建てた人々の造りし  
この山形の里にて学ぶことの幸せを

世はあくまでも暗く、人々の心はあくまでも痛む  
しかしこの学舎を去るいま思う  
君たち若き友の優しい心と、優れた技をもってすれば  
輝ける未来を築き上げることになんの難儀ありやと

いま講義を終えるにあたりお願い  
「山大マインド」の心の、  
永久に君たち若き友の胸に抱き続けられんことを

大きな夢をもて大空に飛翔せよ